

数理・データサイエンス・A I 教育プログラム認定制度 リテラシーレベル【MDASH-Literacy】申請要領

※MDASH…Approved Program for Mathematics, Data science, and A I Smart Higher Education

（令和 7 年度先行認定・再認定用）

目 次

1. はじめに（リテラシーレベル）	2
（1）申請主体について	2
（2）申請する教育プログラムについて	2
（3）先行認定における確認の観点について	3
（4）先行認定におけるプラス選定について	3
（5）再認定における確認の観点について	4
（6）申請手続	4
2. 先行認定の各提出書類等について	9
（1）申請様式 1 ～ 5	9
（2）プログラム構成科目の令和 7 年度シラバス	13
（3）プログラムが全学部等が開講されていることが分かる資料	14
（4）プログラムを改善・進化させるための体制（委員会・組織等）の設置規則等	14
（5）自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）の設置規則等	14
（6）取組概要	14
（7）その他補足資料	14
（8）申請書類一式	14
3. 再認定の各提出書類等について	15
（1）申請様式 1 ～ 3	15
（2）取組概要	18
（3）その他補足資料	18
（4）申請書類一式	18
4. プラス選定における審査の観点について（リテラシーレベル）	…19
5. 申請様式の記載例について（先行認定）	…20
6. 申請様式の記載例について（再認定）	…33

1. はじめに（リテラシーレベル）

（１）申請主体について

- 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に規定される大学、短期大学、高等専門学校が申請主体
- 学校ごとに原則 1 プログラムの申請のみ可

【留意点】

- ・ 1 法人で複数の学校を設置している場合でも、学校ごとに申請してください。
- ・ 通信教育課程（部）を別に申請する必要はありませんが、認定を受けようとする通信教育課程（部）の教育プログラムが異なる場合は、別に申請してください。

（２）申請する教育プログラムについて

- 「数理・データサイエンス・A I（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」（2024 年 2 月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム）（以下「モデルカリキュラム（リテラシーレベル）」という。）に準拠した教育プログラムであること
- 教育プログラムを構成する授業科目は、正規の教育課程に位置付けられている卒業単位として認められる授業科目であること
- 構成する授業科目については、以下の 5 つの審査項目を満たしていること

項目	5 つの審査項目	モデルカリキュラム対応箇所
項目①	● 数理・データサイエンス・A I は、現在進行中の社会変化（第 4 次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであること、また、それが自らの生活と密接に結びついているものであること。	導入 1-1. 社会で起きている変化 1-6. データ・AI 活用の最新動向
項目②	● 数理・データサイエンス・A I が対象とする「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ること。	導入 1-2. 社会で活用されているデータ 1-3. データ・AI の活用領域
項目③	● 様々なデータ活用の現場におけるデータ活用事例が示され、数理・データサイエンス・A I は様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するものであること。	導入 1-4. データ・AI 活用のための技術 1-5. データ・AI 活用の現場
項目④	● ただし数理・データサイエンス・A I は万能ではなく、その活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、A I 社会原則等）を考慮することが重要であること。	心得 3-1. データ・AI 活用における留意事項 3-2. データを守る上での留意事項
項目⑤	● 実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・A I の基本的な活用法に関すること。	基礎 2-1. データを読む 2-2. データを説明する 2-3. データを扱う

（出典）「数理・データサイエンス・A I 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の創設について」（2020 年 3 月 数理・データサイエンス・A I 教育プログラム 認定制度検討会議）

【留意点】

- ・ 大学院や別科、専攻科の授業科目や、入学時のガイダンス、公開講座、寄付講座は対象外です。
- ・ 卒業単位として認められない授業科目を教育プログラムに含めることは可能ですが、認定要件を満たすための授業科目は、卒業単位として認められる科目で構成されている必要があります。
- ・ 教育プログラムを構成する授業科目について、科目数や単位数、教養科目・専門科目への位置付けに関する要件はありません。
- ・ 教育プログラムを構成する授業科目に、応用基礎レベルの認定（を受けようとする）教育プログラムの授業科目が含まれていても差し支えありません。

(3) 先行認定における確認の観点について

先行認定とは、令和7年度前学期までの教育プログラムの実績をもとに、一定の要件を満たした教育プログラムを令和7年度認定とする認定手続です。申請後は以下のような観点を満たしているかどうか確認しますので、申請大学等においても確認のうえ、申請をお願いします。

< 観点（隅付き括弧は関連する申請様式） >

- モデルカリキュラム（リテラシーレベル）に準拠し、前ページの5つの審査項目に対応する授業科目を教育プログラムの修了要件としていること【様式1 関係】
- 学生が学部・学科に関わらず履修可能な形で開講されていること
- 教育プログラムの「名称」「身に付けることのできる能力」「修了要件」「構成される授業科目」「授業の方法・内容」「プログラムの実施体制」を記載した計画を策定し、学校のホームページ等で対外的に広く公表していること
- 令和7年度前学期までで教育プログラムを実施しており、複数学部等（人文・社会科学等を含む）から教育プログラムの履修者がいること【様式2 関係】
- 学生に対して教育プログラムの履修を促す取組が実施されていること【様式3 関係】
- 教育プログラムの関する自己点検・評価、外部評価等を行い、その結果を公表していること【様式4 関係】

【留意点】

- ・ 卒業要件上、全学必修科目として開講することを求めるものではありません
- ・ 「複数学部等（人文・社会科学等を含む）」に関する定義

複数学部等：大学においては2つ以上の学部、短期大学・高等専門学校においては2つ以上の学科のことを指す。

ただし、単一学部のみ大学、単一学科のみ短期大学・高等専門学校においては、2つ以上の専門分野等

人文・社会科学等：学校基本調査の「学科系統分類表」のうち、次の分類

大学は「理学」「工学」「農学」「保健」「商船」以外の学部

短期大学は「工業」「農業」「保健」以外の学科

高等専門学校は「工業」「商船」以外の学科

(4) 先行認定におけるプラス選定について

他大学等の参考となるような先導的な特色ある教育プログラムの実績がある場合、認定とは別に申請のうえ、リテラシーレベルプラスとして選定される場合があります。選定における審査の観点については、「プラス選定における審査の観点について（リテラシーレベル）」(p.18)をご確認ください。

なお、認定校の拡大によりプラス選定の目的である全国の大学等への普及・展開について一定の成果が出てきたことを踏まえ、リテラシーレベルのプラス選定は今回で最後の受付といたしますので、ご理解ください。

< 申請要件 >

- リテラシーレベルの認定を既に受けている教育プログラムであること、または、リテラシーレベルの認定も同時並行で申請していること

(5) 再認定における確認の観点について

再認定とは、一度認定を受けた教育プログラムが認定期間の満了に伴い、これまでのプログラムの実績等に基づき、認定期間の更新を行うための認定手続です。なお、再認定の場合、認定期間は認定を受けた年度の初日から3年間となります。

また、プラス選定について、前ページの(4)の記載のとおり、選定の目的であった全国の大学等への普及・展開について一定の成果が出てきたことを踏まえ、令和8年度以降のリテラシーレベルのプラス選定はしませんので、ご理解ください。

＜観点（隅付き括弧は関連する申請様式）＞

- 初回認定期間におけるプログラムの詳細（「(3) 先行認定における要件について」の＜認定要件＞の項目）がHPで掲載されていること
- 初回認定期間におけるプログラムの実績や成果【様式2関係】【様式3関係】
- 更新後の認定期間におけるプログラムの構成【様式1関係】

(6) 申請手続

① 申請受付期間

令和7年10月14日（火）～令和7年12月8日（月） 17:00 締切

② 申請方法

申請区分に応じて「③申請書類」に記載の書類を準備のうえ、申請受付期間内に次の2点を対応してください

☐ 申請書類を Box 上にアップロードする

【アップロード先 URL】

<https://mext.ent.box.com/f/9d2036712c3f4acdb5c79e4f1cbe82c2>

☐ 申請フォーム（Microsoft Forms）に必要情報を入力し、送信する

【申請フォーム URL】

<https://forms.office.com/r/90zMCOaQWC>

【留意点】

- ・ 申請書類について、申請するファイルを1つのフォルダにまとめ、フォルダ名を「【リテラシー】〇〇大学」としたうえで、アップロードしてください。
- ・ 提出書類のアップロードと申請フォーム上での送信を完了後、文部科学省又は文部科学省より業務委託を受けた者より、申請者（申請フォームに記載のメールアドレス）に対して、受領確認メールを送信します。
※zip ファイルの形式で提出する必要はありません
※受領確認メールを受信した旨の連絡は不要です
※申請後2週間を経過しても受領確認メールが届かない場合は、文部科学省まで連絡してください。

【連絡先】

高等教育局 専門教育課 情報教育推進第一係（03-6734-4750）

③ 提出書類

申請区分に応じて、次ページの提出書類を準備してください。

なお、紙媒体の提出・郵送は必要ありません。また、申請書の提出に当たっては、機関として提出することを前提とし、提出に係る添書（かがみ文）及び当該文書への押印は不要です。

＜提出書類一覧＞

提出書類の種類 (太字はファイル名)	提出書類の可否			提出様式
	令和7年度 認定・選定		令和8年 度認定	
	先行 認定	プラス 選定	再認定	
(1) 申請様式1～5 (様式1～4はExcel形式、様式5はWord形式) ＜先行認定・プラス選定＞ 01【リテラシー】〇〇大学(申請様式1～4) 01-2【リテラシー】〇〇大学(プラス申請様式5) ＜再認定＞ ※再認定用の様式に留意 01【リテラシー再認定】〇〇大学(申請様式1～3)	○	○	○	Excel PDF Excel
(2) プログラム構成科目の令和7年度シラバス (又は授業内容と同等なもの) 02【リテラシー】〇〇大学(シラバス)	○	－	－	PDF
(3) プログラムが全学部等に関講されていることが 分かる資料(カリキュラムマップ、教育課程表等) 03【リテラシー】〇〇大学(カリキュラムマップ)	○	－	－	PDF
(4) プログラムを改善・進化させるための体制 (委員会・組織等)の設置規則等 04【リテラシー】〇〇大学(プログラム改善体制規則)	○	－	－	PDF
(5) 自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)の 設置規則等 05【リテラシー】〇〇大学(自己点検・評価体制規則)	○	－	－	PDF
(6) 取組概要(1ページ ひな形様式) ＜先行認定・プラス選定＞ 06【リテラシー】〇〇大学(取組概要) ＜再認定＞ ※再認定用の様式に留意 02【リテラシー再認定】〇〇大学(取組・成果概要)	○	○	○	PowerPoint PowerPoint
(7) その他補足資料(2ページ以内 提出任意) ＜先行認定・プラス選定＞ 07【リテラシー】〇〇大学(補足資料) ＜再認定＞ ※再認定用の様式に留意 03【リテラシー再認定】〇〇大学(補足資料)	△ (任意)	△ (任意)	△ (任意)	PDF PDF
(8) 申請書類一式 【リテラシー】〇〇大学(書類一式)	○	○	○	PDF

④ 申請フォームについて

以下の事項について、申請フォーム（Microsoft Forms）より必ず入力してください。

【申請機関の情報】

- 大学等の設置者
学校教育法第2条に基づき、申請時点の設置者名を記載してください。
例：国立大学法人〇〇大学、学校法人◆◆学園 等
- 学校名
申請時点の学則に記載されている名称を記載してください。
例：〇〇大学、◆◆高等専門学校 等
- 学校の所在地
学校の本部が所在する都道府県をプルダウンで選択してください。
- 設置形態
「国立大学」、「公立大学」、「私立大学」、「公立短期大学」、「私立短期大学」、「高等専門学校」、「その他」から選択してください。
- 担当者氏名
申請する教育プログラムにおける窓口となる者の氏名を記載してください。
- 担当者所属部署（役職）
担当者の所属部署（役職）を記載してください。
- メールアドレス
担当者のメールアドレスを記載してください。
※申請内容について問い合わせをする場合がありますので、可能な限りグループアドレス等、複数の担当者が確認できるアドレスを記載してください。
- 電話番号
担当者の連絡先を記載してください。

【リテラシーレベルについて】

- 申請区分【リテラシーレベル】
リテラシーレベルの申請区分を選択してください。
※リテラシーレベルを申請しない場合は、「申請なし」を選択してください。
- プログラム名【リテラシーレベル】
リテラシーレベルに申請する教育プログラムの名称を記載してください。
※申請がない場合は空欄にしてください。

【応用基礎レベル（大学等単位）について】

- 申請区分【応用基礎プログラム（大学等単位）】
応用基礎プログラム（大学等単位）の申請区分を選択してください。
※応用基礎プログラム（大学等単位）を申請しない場合は、「申請なし」を選択してください。
- プログラム名【応用基礎プログラム（大学等単位）】
応用基礎プログラム（大学等単位）に申請する教育プログラムの名称を記載してください。
※申請がない場合は空欄にしてください。

【応用基礎プログラム（学部・学科単位）について】

➤ 申請区分【応用基礎レベル（学部・学科単位）】

応用基礎プログラム（学部・学科単位）の申請区分を選択してください。

※応用基礎プログラム（学部・学科単位）を申請しない場合は、「申請なし」を選択してください。

➤ 申請内訳【応用基礎レベル（学部・学科単位）】

申請する教育プログラムの申請件数、対象学部等を記載してください。

例：3件（文学部、工学部、医学部）

※申請がない場合は空欄にしてください。

➤ プラス申請内訳【応用基礎レベル（学部・学科単位）】

プラス申請する教育プログラムの申請件数、対象学部等を記載してください。

例：2件（工学部、医学部）

※申請がない場合は空欄にしてください。

➤ プログラム名【応用基礎レベル（学部・学科単位）】

応用基礎レベル（学部・学科単位）に申請する教育プログラムの名称を記載してください。

※複数の学部・学科で申請する場合、例のように、プログラム名ごとに句点で区切って記載してください。（例：〇〇大学データサイエンスプログラム（文学部）、〇〇大学データサイエンスプログラム（工学部）、〇〇大学データサイエンスプログラム（医学部））

※申請がない場合は空欄にしてください。

➤ プログラムの公表情報

申請する教育プログラムについて、HP等での掲載状況を確認するため（PDF ファイルの URL ではなく）該当情報が掲載されているウェブページ（HTML ページ）の URL を記載してください。

※PDF ファイルへの直接リンクではなく、ウェブページをご記入ください。

※応用基礎レベル（学部・学科単位）の教育プログラムを複数の学部・学科で申請する場合、公表アドレスが異なる場合は例のように記載してください。

例：（文学部）<https://www.〇〇〇>、（工学部）<https://www.◇◇◇>

➤ 公表情報の確認

プログラムを公表しているウェブページにおいて網羅すべき事項について、掲載されていることを確認し、チェックを入れてください。

【公表に必要な事項】

- ☐ プログラム名称
- ☐ 身に付けることができる能力
- ☐ 修了要件
- ☐ 開講されている科目の構成
- ☐ 授業の方法および内容
- ☐ 実施体制
- ☐ 自己点検・評価の結果
- ☐ 申請書類一式（認定後）

【留意点】

- ・ 掲載内容は提出書類等と一致するようにしてください

- ・ 授業の方法および内容については、当該教育プログラムのＨＰ内に対象科目のシラバスを掲載いただくか、シラバス検索ページへの遷移するリンクを掲載してください。ウェブページ内に直接記載いただいても差し支えありません）
- ・ 自己点検・評価の結果について、令和６年度（または令和７年度）の自己点検・評価を公表してください。申請時点での掲載が困難な場合、申請時点においては、様式４を掲載することでも差し支えありません。
- ・ 「申請書類一式（認定後）」については、認定または選定後に掲載していただくため、申請時点での掲載は不要です。認定または選定後、別途、詳細をご案内します。

2. 先行認定の各提出書類等について

(1) 申請様式 1～5

申請する教育プログラムの内容やこれまでの実績、質向上を図る体制・計画などについて、指定様式 1～4（プラス申請される場合は、様式 1～5）に記載してください。各様式の留意点については、以下をご確認ください。あわせて、記載例（p. 19 以降）もご参照ください。

様式 1 プログラムを構成する授業科目について

大学等名：申請の主体である大学等名（正式名称）を記載してください。

プログラム名：申請する教育プログラム名を記載してください。

後述の（6）取組概要および（9）HP の記載と一致させてください。

①教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件が相違する場合は「学部・学科によって、修了要件は相違する」を選択してください。学部・学科によって修了要件の相違はなく、全学部・学科に同一の修了要件を設定している場合は、「学部・学科によって、認定要件は相違しない」を選択してください。

②対象となる学部・学科等名称

＜①において、「学部・学科によって、修了要件は相違する」を選択している場合＞

様式 1 のシートを複製し、②に記載する修了要件の対象となる学部・学科の名称を記載して、修了要件ごとに様式 1 を作成してください。複数の学部・学科で同じ修了要件の場合は、同じシートに記載してください。

＜①において、「学部・学科によって、修了要件は相違しない」を選択している場合＞

この項目は記載不要です。

③プログラム履修必須の有無

全学部・学科等、もしくは②で記入した学部・学科等において、申請する教育プログラムを卒業までに必ず履修するものとして実施している、又は、今後履修必須とする計画があるかどうかについて、プルダウンの中から選択して回答してください。

【例 1】令和 7 年度以降の入学生全員に履修を課している認定教育プログラム

→「令和 6 年度以前又は令和 7 年度より、履修することが必須のプログラムとして実施」を選択

【例 2】令和 7 年度までは希望者のみが履修していたプログラムについて、令和 8 年度以降の入学生全員に履修させることに変更した

→「令和 9 年度までに履修必須とする計画」を選択

【例 3】A 学部 a 学科は履修必須だが、A 学部 b 学科においては履修任意となっている

→ 大学においては学部単位で判定するため b 学科で履修必須とする計画がなければ「令和 10 年度以降に履修必須とする計画、又は未定」を選択

④修了要件

申請する教育プログラムの修了要件を具体的に記載し、5 つの審査項目の内容を含む授業科目を必ず履修する修了要件となっていることを確認してください。記載にあたっては、「⑤プ

プログラム構成科目」の記載と対応させる（例 必須科目 4 単位、選択必須科目から 6 単位の計 10 単位）等、修了要件を満たすための条件を分かりやすく記載してください。

⑤ プログラム構成科目

- 「必要最低科目数・単位数」欄には、プログラムの修了に必要な最低科目数、単位数を記載してください。
（例 A 学部 a 学科は 3 科目 6 単位だが、A 学部 b 学科は 2 科目 4 単位の場合）
→ b 学科の「2 科目 4 単位」を記載してください。
- プログラムを構成する授業科目を「必須科目」「選択必須科目」「選択科目」に分類して、科目名、単位数、モデルカリキュラム対応状況欄に記載してください。
- 「モデルカリキュラム対応状況」は、2 ページにある、5 つの審査項目とモデルカリキュラム（リテラシーレベル）の対応表をもとに、「1-1」～「その他」までで、該当する学習内容を含むものにすべて「○」を選択してください。
【留意点】
 - ・修了要件を満たすパターンが複数ある場合、どのパターンにおいても「1-1」～「3-2」の項目は網羅していることを確認してください。
 - ・「4-1」～「4-9」は、モデルカリキュラム（リテラシーレベル）の「4. オプション」となるため、該当がある場合のみ「○」を選択してください。選択項目にない授業科目は「その他」を選択してください。
- プログラムの修了要件に含まれない履修推奨のような科目は、「選択科目」欄に記載してください。
- 「必須科目」「選択必須科目」「選択科目」欄が不足する場合には、適宜行を追加してください。
- 記載する「授業科目」「単位数」が他の書類等（シラバスや HP の記載）と一致しているかどうか確認してください。

⑥ プログラムを構成する授業の内容

「授業に含まれているスキルセットのキーワード」欄について、以下リンク先のモデルカリキュラム（リテラシーレベル）の「リテラシーレベル モデルカリキュラムの構成（リンク先ファイル P.11）」の項目ごとに、スキルセット（リンク先ファイル P.14 以降）を参照の上、授業内容に対応するキーワード（知識・スキル）、授業科目をそれぞれ記載してください。

（参考）モデルカリキュラムについて

https://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/pdf/model_literacy_20240222.pdf

【留意点】

- ・スキルセットのキーワード（知識・スキル）の全てを網羅する必要はありません。申請するプログラムの授業科目ごとに、当てはまるキーワードのみ「授業に含まれているスキルセットのキーワード」欄に転記してください。
（例）授業科目「情報Ⅱ」が「2-1」の項目を満たしており、スキルセット内の「・データの種類（量的変数、質的変数）」「・データのばらつき（分散、標準偏差、偏差値）、外れ値」のキーワードが該当する場合
→ 「2-1」の「授業に含まれているスキルセットのキーワード」欄に以下を記載
 - ・データの種類（量的変数、質的変数）「情報Ⅱ」
 - ・データのばらつき（分散、標準偏差、偏差値）、外れ値「情報Ⅱ」

⑦プログラムの学修成果（学生等が身に付けられる能力等）

申請する教育プログラムの修了時に学生等が身に付けられる能力等、学修成果を記載してください。

様式2 プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

申請する教育プログラムの開設年度を記載してください。令和7年度以前に開設されていない場合には認定できません。

②履修者・修了者の実績

● 学部・学科名称

大学の場合は令和7年度に設置されている全ての学部、短期大学・高等専門学校の場合は令和7年度に設置されている全ての学科を記載してください。学部の中に修業年限が異なる学科がある場合は、当該学部については学科別に記載して差し支えありません。

● 学生数（うち女性含む）、入学定員、収容定員

いずれも学校基本調査（令和7年5月1日現在）と同様に記載してください。

● 履修者数、修了者数

・履修者数は、令和7年5月1日現在大学等に在籍する学生等について、教育プログラムを履修した年度に人数を計上してください。

・複数年度にまたがる教育プログラムの場合、履修者数については、履修を開始した初年度に計上してください。

・年次ごとの履修者数について、「①プログラムの開設年度」と整合が取れるよう確認して記載してください。（プログラムの開始年度が令和6年度の場合、令和6年度及び令和7年度の欄に履修者を記載してください。）

・修了者数は、当該年度において申請プログラムの修了要件を満たした学生の人数を計上してください

・履修者がいない学部・学科等は「0」と入力してください。

● 履修者数合計、履修率、合計

セルに式が入っているため、直接、数字等をセルに入力しないでください。

様式3 教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

①全学の教員数

教員数（常勤）は学校基本調査（令和7年5月1日現在）の教員数（本務者）の数を記載してください。教員数（非常勤）も同様に令和7年5月1日現在の数を記載してください。

②プログラムの授業を教えている教員数

申請する教育プログラムを構成する授業科目を担当している教員数を常勤、非常勤含めて令和7年度における合計人数を記載してください。

③プログラムの運営責任者

申請する教育プログラムの運営責任者名とその役職名を記載してください。

④プログラムを改善・進化させるための体制（委員会・組織等）

申請する教育プログラムにおける不断の改善を図るための委員会・組織等の名称を記載してください。

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則を記載してください。

⑥ 体制の目的

④に記載した体制における目的を記載してください。

⑦ 具体的な構成員

④に記載した体制における申請日時点での構成する委員の氏名、役職を記載してください。

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

毎年履修率が上昇する計画となっているかどうか確認するため、令和8年度予定、令和9年度予定、令和10年度予定、令和11年度予定の欄には、令和7年度の履修率の実績を踏まえた履修率の目標値を具体的に設定し、単位を%で記載してください。(令和7年度時点で100%以上の場合には令和8年度～令和11年度は「100%」と記載)

また、「具体的な計画」の欄に、各年度の目標値を達成するための具体的な方策を年度ごとに記載してください。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

担当者を配置するなど、学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような特色ある体制を記載してください。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

入学後のガイダンスの周知など、できる限り多くの学生が履修できるような各大学等の特色ある周知方法を具体的に記載してください。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

学修サポート、学内外の資源利用やICT環境の活用など、できる限り多くの学生が履修・修得できるような各大学等の特色あるサポート体制を記載してください。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける各大学等の特色ある具体的な仕組みを記載してください。

様式4 自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

申請する教育プログラムにおける適切な視点・項目に基づいた自己点検・評価、外部評価等を定期的実施している委員会・組織等の名称、責任者名及び役職名を記載してください。

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点について、自己点検・評価体制における自己点検・評価の結果や不断の改善・進化に向けた取組を記載してください。

様式5 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 プラス申請書

本様式は「プラス」に申請する場合のみ、提出してください。プラス申請については、本様式及び後述の取組概要等を参考に、他大学等の規範となり、ステークホルダーから支持される先導的で独自の工夫・特色のある教育プログラムとなっているかどうかの観点から審査いたします。

①授業内容

分かりやすさ、学習意欲が高まる内容、学生の習熟度や専門性を踏まえた学習内容、学生の習熟度や専門性に応じた授業選択など、具体的に記載してください。

②学生の学習支援

学習支援システムの構築、補完的な教育の実施、インターンシップ先での実践やTAとしての指導、学修成果の可視化等の導入など、具体的に記載してください。

③その他の取組

地域連携や産業界との連携、海外の大学等との連携など、具体的に記載してください

【審査で参考とするポイント】

- ・社会動向を踏まえ、新たな技術（生成AIなど）に係る教育内容・方法を授業に導入するなど、先導的で工夫・特色のある学修に取り組んでいる。
- ・双方向性の高い e-learning の仕組みを導入するなどの実践教育を実施している上、高い学修効果を上げている。
- ・「AI戦略 2019」で位置づけられた「応用基礎レベル」との間の橋渡しとなるような人材の育成に取り組んでいる。
- ・他大学等への教育プログラムの提供等により教育波及効果が得られている。
- ・関連学会や地域コミュニティ、産業界からのニーズを踏まえた教育プログラムである。
- ・海外の先端的な教育プログラム等の活用や連携に取り組んでいる。
- ・全学部等において、認定教育プログラム（リテラシーレベル）を履修必須としている。

【留意点】

- ・ページ数は様式5全体で3ページ以内とし、適宜図表を使用するなど分かりやすくなるよう工夫をしてください。
- ・特に、全学部等において、認定教育プログラム（リテラシーレベル）を履修必須（3年以内（令和9年度まで）に履修必須とする計画があることも含む）としている「認定教育プログラム」を重視します。

(2) プログラム構成科目の令和7年度シラバス

申請するプログラムを構成する授業科目の令和7年度シラバスについて、様式1に記載している科目順に並べ、一つのPDFファイルにしたうえで提出してください。

【シラバスに網羅すべき内容】

「開講年度（欄がない場合には、授業科目名近くの余白に記載）」「学修目標」、「授業の方法」、「授業内容」、「年間の授業計画」、「単位数」、「担当教員」、「成績評価方法等」が分かる資料を提出してください。

【留意点】

- ・入学年度による構成科目の相違や次年度以降に初めて開講する等の事情がある場合は、令和7年度以外のシラバスまたは、【シラバスも網羅すべき内容】を記載した授業計画に関する資料を提出してください。
- ・単位互換等を実施している授業科目については、単位互換等に係る協定書等を該当の科目のシラバスの後に添付して提出してください。

(3) プログラムが全学部等を開講されていることが分かる資料

原則、令和7年度入学者に適用されているカリキュラムマップ等の資料（1ページ目の右上に「令和7年度入学者用」と付記）を提出してください。

(4) プログラムを改善・進化させるための体制（委員会・組織等）の設置規則等

様式3に記載の体制の名称、規則名称と一致していることを確認のうえ、該当の設置規則を提出してください。

(5) 自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）の設置規則等

様式4に記載の体制の名称と一致していることを確認のうえ、該当の設置規則を提出してください。なお、「(4) プログラムを改善・進化させるための体制（委員会・組織等）の設置規則等」で提出する規則と同一である場合、空ファイルで構いませんので、「05【リテラシー】〇〇大学（自己点検・評価体制規則）←04 と同一.txt」といった形で提出してください。

(6) 取組概要

ひな形様式を利用し、申請する教育プログラムに関して、「プログラムの目的」「身に付けられる能力」「開講されている科目の構成」「修了要件」の4項目（プラス申請の場合は、「先導的な独自の工夫、特色が分かる内容」も含めた5項目）を記載した概要資料を作成してください。作成にあたっては、適宜図や写真等も活用し、1ページにまとめたうえで、PowerPoint 形式のまま提出してください。

【留意点】

- ・1ページを超える場合は、後述の(7) その他補足資料として別途提出してください。
- ・既にリテラシーレベルが認定されていて、プラス申請のみ行う大学等においては、ひな形様式の2ページ目の「プラスのみ申請用」を活用してください。
- ・プログラムの名称や授業科目などが他の提出資料と相違ないようにしてください。
- ・本資料は文部科学省において公表資料として使用する可能性があります。

(7) その他補足資料

(6) 取組概要に記載以外の補足事項（例えば、体制・計画に関する事項や、自己点検・評価に関する事項など。）がある場合のみ提出してください。提出にあたっては、適宜図や写真等も挿入し2ページ以内にまとめてください。ひな形はありません。

(8) 申請書類一式

(1) ～ (7) の必要書類を順番に並べて1つのPDF ファイルにまとめてください。（申請様式も様式1から順番になるように並べてください。）

3. 再認定の各提出書類等について

(1) 申請様式 1～3

認定期間の更新を希望する教育プログラムについて、これまでの実績や成果、令和8年度以降の計画について、指定様式1～3に記載してください。各様式の留意点については、以下をご確認ください。あわせて、記載例（p.32以降）もご参照ください。

様式1 プログラムを構成する授業科目について

大学等名：申請の主体である大学等名（正式名称）を記載してください。

プログラム名：申請する教育プログラム名を記載してください。

後述の（4）取組概要および（7）HPの記載と一致させてください。

プログラム掲載URL：後述の（7）の必要事項を掲載しているURLを記載してください。

現在（直近）の認定期間：再認定を申請するプログラムの認定期間を記載してください。

①教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件が相違する場合は「学部・学科によって、修了要件は相違する」を選択してください。学部・学科によって修了要件の相違はなく、全学部・学科に同一の修了要件を設定している場合は、「学部・学科によって、認定要件は相違しない」を選択してください。

②対象となる学部・学科等名称

＜①において、「学部・学科によって、修了要件は相違する」を選択している場合＞

様式1のシートを複製し、③に記載する修了要件の対象となる学部・学科の名称を記載して、修了要件ごとに様式1を作成してください。複数の学部・学科で同じ修了要件の場合は、同じシートに記載してください。

＜①において、「学部・学科によって、修了要件は相違しない」を選択している場合＞

この項目は記載不要です。

③プログラム履修必須の有無

全学部・学科等、もしくは②で記入した学部・学科等において、教育プログラムを卒業までに必ず履修するものとして実施している、又は、今後履修必須とする計画があるかどうかについて、プルダウンの中から選択して回答してください。

【例1】令和7年度以降の入学生全員に履修を課している認定教育プログラム

→「既に履修することが必須のプログラムとして実施」を選択

【例2】令和7年度までは希望者のみが履修していたプログラムについて、令和8年度以降の入学生全員に履修させることに変更した

→「令和10年度までに履修必須とする計画」を選択

【例3】履修必須となる時期が未定あるいは、必須にするかどうかも含めて未定の場合

→「時期含め未定」を選択

【留意点】

・大学における学部内の一部の学科が履修必須の状況（例 A学部 a学科は履修必須だが、A学部 b学科においては履修任意）の場合は、当該学部は履修必須ではないという整理で、選択してください。

④修了要件

「認定教育プログラム」の修了要件を具体的に記載し、5つの審査項目の内容を含む授業科目を必ず履修する修了要件となっていることを確認してください。

記載にあたっては、「⑤プログラム構成科目」の記載と対応させる（例 必須科目 4 単位、選択必須科目から 6 単位の計 10 単位）等、修了要件を満たすための条件を分かりやすく記載してください。

⑤プログラム構成科目

- 「必要最低科目数・単位数」欄には、プログラムの修了に必要な最低科目数、単位数を記載してください。

（例 A 学部 a 学科は 3 科目 6 単位だが、A 学部 b 学科は 2 科目 4 単位の場合）
→ b 学科の「2 科目 4 単位」を記載してください。

- プログラムを構成する授業科目を「必須科目」「選択必須科目」「選択科目」に分類して、科目名、単位数、モデルカリキュラム対応状況欄に記載してください。
- 「モデルカリキュラム対応状況」は、2 ページにある、5つの審査項目とモデルカリキュラム（リテラシーレベル）の対応表をもとに、「1-1」～「その他」までで、該当する学習内容を含むものにすべて「○」を選択してください。

【留意点】

- ・ 修了要件を満たすパターンが複数ある場合、どのパターンにおいても「1-1」～「3-2」の項目は網羅していることを確認してください。
- ・ 「4-1」～「4-9」は、モデルカリキュラム（リテラシーレベル）の「4. オプション」となるため、該当がある場合のみ「○」を選択してください。選択項目にない授業科目は「その他」を選択してください。
- プログラムの修了要件に含まれない履修推奨のような科目は、「選択科目」欄に記載してください。
- 「必須科目」「選択必須科目」「選択科目」欄が不足する場合には、適宜行を追加してください。
- 記載する「授業科目」「単位数」が他の書類等（シラバスや HP の記載）と一致しているかどうか確認してください。

⑥プログラムを構成する授業の内容

「授業に含まれているスキルセットのキーワード」欄について、以下リンク先のモデルカリキュラム（リテラシーレベル）の「リテラシーレベル モデルカリキュラムの構成（リンク先ファイル P.11）」の項目ごとに、スキルセット（リンク先ファイル P.14 以降）を参照の上、授業内容に対応するキーワード（知識・スキル）、授業科目をそれぞれ記載してください。

（参考）モデルカリキュラムについて

https://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/pdf/model_literacy_20240222.pdf

【留意点】

- ・ スキルセットのキーワード（知識・スキル）の全てを網羅する必要はありません。申請するプログラムの授業科目ごとに、当てはまるキーワードのみ「授業に含まれているスキルセットのキーワード」欄に転記してください。

(例) 授業科目「情報Ⅱ」が「2-1」の項目を満たしており、スキルセット内の「・データの種類（量的変数、質的変数）」「・データのばらつき（分散、標準偏差、偏差値）、外れ値」のキーワードが該当する場合

→ 「2-1」の「授業に含まれているスキルセットのキーワード」欄に以下を記載

- ・データの種類（量的変数、質的変数）「情報Ⅱ」
- ・データのばらつき（分散、標準偏差、偏差値）、外れ値「情報Ⅱ」

様式2 プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

今回再認定の申請をするプログラムの開設年度を記載してください。

②履修者・修了者の実績

● 学部・学科名称

大学の場合は令和7年度に設置されている全ての学部、短期大学・高等専門学校の場合は令和7年度に設置されている全ての学科を記載してください。学部の中に修業年限が異なる学科がある場合は、当該学部については学科別に記載して差し支えありません。

● 学生数（うち女性含む）、入学定員、収容定員

いずれも学校基本調査（令和7年5月1日現在）と同様に記載してください。

● 履修者数、修了者数

- ・履修者数、修了者数を記載してください。
- ・履修者数は、令和7年5月1日現在大学等に在籍する学生等について、「認定教育プログラム」を履修した年度に人数を計上してください。
- ・複数年度にまたがる「認定教育プログラム」の場合、履修者数については、履修を開始した初年度に計上してください。
- ・年次ごとの履修者数について、①プログラムの開設年度と整合が取れるよう確認して記載してください。（例えば、プログラムの開始年度が令和2年度の場合、令和2年度～令和7年度の履修者を記載してください。プログラム開始年度より前の年度に人数を計上することはできません）
- ・修了者数は、当該年度において申請プログラムの修了要件を満たした学生の人数を計上してください
- ・履修者がいない学部・学科等は「0」と入力してください。

● 履修者数合計、修了者数合計、合計

セルに式が入っているため、直接、数字等をセルに入力しないでください。

様式3 認定期間中における成果と課題、今後の計画について

様式に記載の項目ごとに、P24に赤字で記載のポイントを参考に、これまでの具体的な取組の成果、課題について、400字程度を目安に記載してください。なお、取組内容や実績について記載する場合は、具体的な時期（年度）や数値も記載するようにしてください。

（２）取組概要

ひな形様式を利用し、現在（直近）の認定期間中における教育プログラムの取組概要・成果を記載した概要資料を作成してください。作成にあたっては、適宜図や写真等も活用し、１ページにまとめたうえで、PowerPoint 形式のまま提出してください。

【留意点】

- ・ １ページを超える場合は、後述の（７）その他補足資料として別途提出してください。
- ・ プログラムの名称や授業科目などが他の提出資料と相違ないようにしてください。
- ・ 本資料は文部科学省において公表資料として使用する可能性があります。

（３）その他補足資料

（２）取組概要に記載以外の補足事項（例えば、体制・計画に関する事項や、自己点検・評価に関する事項など。）がある場合前述の（２）取組概要以外の補足事項（例えば、体制・計画に関する事項や、自己点検・評価に関する事項など。）がある場合のみ提出してください。提出にあたっては、適宜図や写真等も挿入し２ページ以内にまとめてください。ひな形はありません。

（４）申請書類一式

（１）～（３）の必要書類を順番に並べて１つの PDF ファイルにまとめてください。（申請様式も様式 1 から順番になるように並べてください。）

プラス選定における審査の観点について（リテラシーレベル）

「授業内容」、「学生への学習支援内容」及び、「その他様々な取組（地域との連携、産業界との連携、海外の大学との連携等）」に関して、「学習効果」、「先進性・独創性」、「波及可能性」を評価の軸として、総合的に選定する。

○ 評価事項（想定される取組を記載）

- ・授業内容
 - － 分かりやすさの重視
 - － 学習意欲が高まる内容
 - － 学生の習熟度や専門性を踏まえた内容や授業選択
 - － 教材・技術等の公開・展開
 - － その他
- ・学生への学習支援
 - － 学習支援システムの構築
 - － 補完的な教育の実施
 - － インターンシップ先での実践やTAとしての指導
 - － 学修成果の可視化等の導入
 - － その他
- ・その他様々な取組（地域との連携、産業界との連携、海外の大学との連携等）

○ 評価軸

- ・学習効果
- ・先進性・独創性
- ・波及可能性

○ 評価事項と評価軸

評価軸	学習効果 (意欲/知識・能力)	先進性・独創性	波及可能性
評価事項	・授業内容 ・学生への学習支援 ・その他様々な取組（地域との連携、産業界との連携、海外の大学との連携等）		

（出典）数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）
実施要綱細目（令和3年2月24日制定）

大学等名	〇〇大学	HPで示すプログラム名と相違ないか確認してください。
プログラム名	〇〇大学リテラシープログラム	

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

大学は学部名を、短大・高専は学科名を記載してください。
※例えば、大学において「文学部史学科」といった学科単位で書き分けることはできません。
(同一学部の学科により修得する科目が異なる場合は、④修了要件で書き分けてください)

② 対象となる学部・学科名称

文学部、経営学部、国際教養学部

③ プログラム履修必須の有無

令和6年度以前又は令和7年度より、履修することが必須のプログラムとして実施

④ 修了要件

必須科目2単位と選択必須科目1単位(2科目のうち1科目)の計3単位を修得すること。

⑤ プログラム構成科目

必要最低科目数・単位数	2 科目
	3 単位

		モデルカリキュラム対応状況																							
授業科目		単位数	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	その他		
(1) 必須科目 (プログラムを修了するために必ず履修しなければならない科目) ※卒業要件上の必修科目とは必ずしもイコールではない	科目a	2	○	○	○	○	○	○				○	○												
(2) 選択必須科目 (プログラムを修了するために一定の条件のもと履修しなければならない科目)	科目b	1							○	○	○	○	○			○	○								
	科目c	1							○	○	○	○	○							○	○	○			
(3) 選択科目 (プログラムを構成する科目のうち「必須科目」「選択必須科目」のいずれにも該当しない科目)																									

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI「科目a」 ・データ量の増加、AIの非連続的進化「科目a」 ・Society 5.0、データ駆動型社会「科目a」 ・・・
	1-6	
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	
	1-3	
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	
	1-5	
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	
	3-2	
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	
	2-2	
	2-3	

モデルカリキュラムに記載されているスキルセットの文言をそのまま使用してください。
スキルセットの全てを網羅する必要はありません。

⑦ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

社会におけるデータ・AI活用に関する知識やデータを適切に読み解く能力・・・

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和6 年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

学部・学科名称	学生数		入学 定員	収容 定員	令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数 合計	履修率
	男子	女子			履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
文学部	324	123	80	320	65	50	60	50											65	20%
経営学部	250	80	60	240	45	35	35	25											45	19%
国際教養学部	236	97	60	240	35	25	40	25											35	15%
工学部	404	75	100	400	100	100	100	100											100	25%
																			0	#DIV/0!
																			0	#DIV/0!
																			0	#DIV/0!
																			0	#DIV/0!
																			0	#DIV/0!
																			0	#DIV/0!
																			0	#DIV/0!
																			0	#DIV/0!
																			0	#DIV/0!
																			0	#DIV/0!
																			0	#DIV/0!
																			0	#DIV/0!
																			0	#DIV/0!
																			0	#DIV/0!
合 計	1,214	375	300	1,200	245	210	235	200	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	245	20%

履修者数は履修を開始した年度に計上してください。

修了者数は当該年度に修了要件を満たした者を計上してください。
(履修者の内数ではありません)

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	100	人
(非常勤)	50	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

20	人
----	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	〇〇 〇〇
(役職名)	〇〇センター長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織)

(名称)	〇〇大学〇〇委員会
------	-----------

全学的な組織が兼ねていても問題ありません。

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	〇〇プログラム実施規則
------	-------------

⑥ 体制の目的

データを活用し社会の課題を発見、解決できる人材を育成することを目的に、数理・データサイエンス・AI教育の全学的な普及、関連科目の整備を行い、学内共同施設としてセンターを設置。本センターでは・・・(400字以内目安)

⑦ 具体的な構成員

数理・データサイエンス・AI教育研究センター長 〇〇
 〇〇学部 教授 〇〇
 〇〇学部 准教授 〇〇
 〇〇学部 企画課長 〇〇
 ……

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	20%
令和8年度予定	50%
令和9年度予定	70%
令和10年度予定	80%
令和11年度予定	100%

具体的な計画

目標を実現するために、令和7年度より、授業時間内外での学習指導、質問を受け付ける仕組みや教育上の工夫、学生指導・支援等の学修サポートを数理・データサイエンス・AI教育研究センターにて実施し、学生のプログラム履修を促進している。また、令和9年度よりプログラムを構成する科目〇〇を全学必修にする計画である。…（500字以内目安）

「様式1③ プログラム履修必須の有無」との整合性を意識し、可能な限り具体性や数字的な根拠を含めて記載してください。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

センターの設置により全学的な教育コンテンツを作成支援し、プログラムの基礎部分である科目〇〇については全学生が受講できるようオンデマンド教材を整備するとともに、各学部担当者を配置し、全学的な履修を支援・促進している。…（400字以内目安）

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

入学後のガイダンス、SNSなどで、学生にプログラムを受講することの意義を周知している。学内でプログラムについてのポスターを掲示し、また、本学のWEBサイトホームページトップ画面にプログラム専用ページへのリンクを掲載して、学生が情報を受け取りやすい環境を整備している。…（400字以内目安）

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本教育プログラムの授業について、LMSにアーカイブを蓄積し、多くの学生がいつでも講義の閲覧が可能な環境を構築している。… (400字以内目安)

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本教育プログラムについての履修をLMSにて管理し、学生は授業時間以外に不明点等をシステムを通じて確認することができ、質問はセンターの教員を通じて返答する体制を整備している。… (400字以内)

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

〇〇大学〇〇委員会

(責任者名) 〇〇 〇〇

(役職名) 〇〇センター長

全学的な組織が兼ねていても問題ありません。

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況		〇〇部において、プログラムの履修・修得状況の分析を実施し、履修データ分析システムの活用により、受講者毎の講義演習進捗状況や課題への回答状況を把握することができる。・・・ (300字以内目安)
学修成果		〇〇部において実施している学生調査のうち「〇〇」の項目を分析することによって、授業内容の学生の理解度を把握することができ、その結果を数理・データサイエンス・AI教育研究センターと連携し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。・・・ (300字以内目安)
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度		本教育プログラム受講者全員に対して授業アンケートを実施しており、〇〇部において学生の理解度を分析している。・・・ (300字以内目安)
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度		受講生に対する授業アンケートにおいて、後輩学生や他の学生への推奨について確認している。また、本教育プログラムの専用ページにおいて受講の感想等の意見を掲示し、講義受講の推奨に活用している。・・・ (300字以内目安)
全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況		本教育プログラムを構成する科目〇〇については令和8年度から全学必修とすることが決まり、履修者数、履修率の向上にむけて推進している。また、兼務教員会議を定期的実施し、各学部における数理・データサイエンス・AI教育の内容について各専門分野からの観点も取り入れ見直し等を検討し、より学生の履修を推進している。・・・ (300字以内目安)

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価		卒業生調査を卒後〇年に実施し、本教育プログラムを修了した卒業生の進路先や活躍状況の把握が可能である。また民間企業、公務員団体に対して企業調査を実施、本教育プログラムを修了した卒業生における採用状況や企業評価を把握する仕組みを設けている。・・・（300字以内目安）
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見		共同研究等提携企業及び本学が毎年実施している〇〇シンポジウムに参加している企業に対してアンケートを実施し、教育プログラムの講義内容及び実データを活用した演習等の手法について意見を収集するとともに、数理・データサイエンス・AI教育研究センターにおいてプログラムの改善に活用している。・・・（300字以内目安）
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		モデルカリキュラムリテラシーレベルの導入部分に準じた内容を展開し、時事やトレンドなど社会での実例をもとにAI等がどのような活用をされているかを中心に好奇心を促す講義内容としている。取り上げる実例については、学生アンケート等を活用し、その内容について評価を実施している。・・・（300字以内目安）
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		数理・データサイエンス・AI教育研究センターにて学生アンケート及び提携企業からの意見を参考に、学生の「分かりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しを検討している。・・・（300字以内目安）

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度 プラス申請書

申請単位	リテラシーレベル
大学等名	〇〇大学
プログラム名	〇〇大学リテラシープログラム

① 授業内容

本プログラムは、「リテラシーレベル」の教育プログラムとして全学部において必須のプログラムとなっている。さらに、本学において「応用基礎レベル」に対応する「〇〇プログラム」への学修の橋渡しとなる仕組みを構築している。

- ・ 分かりやすさについて

遠隔授業と対面授業を併用し、受講者がいつでも視聴可能で内容が多岐にわたるビデオ講義を実施している。初学者であっても反復学習が可能となるよう e-learning 教材を提供している。・・・

- ・ 学習意欲が高まる内容について

課題発表を含むグループ演習、実データを用いて実課題を解決する実践型の演習などを段階的に充実させていくことによりデータサイエンスを学修する意義を実感させ、学習意欲を高めている。・・・

- ・ 学生の習熟度や専門性を踏まえた学習内容について

TA 制度により先輩受講者への質問を可能としている。受講生の興味関心を引き出すため、複数の専門性に関する例に沿った AI 活用技術について学修できる内容となっている。・・・

- ・ 学生の習熟度や専門性に応じた授業選択について

受講生のキャリアデザインや、社会的に求められている専門性に合わせたスキルを選択的に修得することができるよう、分野横断型の選択科目を提供している。・・・

- ・ 〇〇について

・・・

- ・ 各項目の文字数の指定はありません。
- ・ ページ数は、①、②及び③の全体で 3 ページ以内としてください。
- ・ 図や写真を挿入することは可能です。
- ・ 文字の大きさは、12 ポイント以上を使用してください。

② 学生への学習支援

本プログラムでは、以下の独自の学習支援を実施している。

- ・学習支援システムの構築について

受講生の履修管理、課題提出、小テスト、授業アンケートなどを LMS 上で一括して管理し、教員が受講生の理解度・習熟度を的確に把握することによりそれぞれの受講生に応じた適切な指導が可能となっている。・・・

- ・補完的な教育の実施について

各回の講義をすべてビデオ講義として配信することにより受講生が習熟度に応じて反復学修することが可能となっている。独自の e-learning 教材を提供することにより専門性に合わせて自主的に選択して学修できるよう支援している。・・・

- ・インターンシップ先での実践やTAとしての指導について

受講生 30 名あたり 1 名以上の TA を配置することにより受講生が質問・問題解決しやすい環境を強化している。TA 教育としてマニュアルを作成し研修を行うなど、TA の質の保証にも力を入れ支援の充実を図っている。・・・

- ・学修成果の可視化等の導入について

LMS 上で管理しているデータからそれぞれの受講生の各種状況を週単位・月単位など評価・分析して視覚的に把握できるツールを活用している。・・・

- ・〇〇について

・・・

③ その他の取組（地域連携、産業界との連携、海外の大学等との連携等）

本プログラムでは、以下のような外部連携を実施している。

・地域連携や産業界との連携について

産官学連携型のコンソーシアムを形成し、地域や企業の実データを用いた実課題の解決を目指す共同研究を実施している。社会人向けのリカレント教育として開講しており、企業から受講生の受け入れを行い、企業側から教育内容に関するフィードバックを受けるなど大学側の授業改善にもつながっている。・・・

・海外の大学等との連携について

〇〇大学とパートナーシップを結んでおり、海外派遣や英語によるカリキュラムの導入などグローバルに活躍できる人材の育成に取り組んでいる。・・・

・〇〇について

・・・

大学等名	〇〇大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	〇〇大学リテラシープログラム	申請年度	令和7年度

取組概要

「教育プログラム名」
様式1およびHPに記載のプログラム名と統一ください

申請する教育プログラムの概要について、適宜図や写真等も挿入し、**1ページにまとめて**記載してください。
※フォントの種類や大きさ、色などは適宜変更願います

必ず以下の4項目を含めて作成してください。

- ①プログラムの目的
- ②身に付けられる能力
- ③開講されている科目の構成（科目名・単位数）
- ④修了要件

プラス選定に申請する場合は、上記に加えて「先導的で独自の工夫・特色」を含めて作成してください。

本資料は文部科学省において公表資料として
使用する可能性があります

新規申請用

大学等名	〇〇大学	認定レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	〇〇大学リテラシープログラム	認定年度	令和〇年度

取組概要

「教育プログラム名」

様式1およびHPに記載のプログラム名と統一ください

「認定年度」

そのレベルが認定された年度を記載してください。

申請する教育プログラムの概要について、適宜図や写真等も挿入し、**1ページにまとめて**記載してください。
※フォントの種類や大きさ、色などは適宜変更願います

必ず以下の4項目を含めて作成してください。

- ①プログラムの目的
- ②身に付けられる能力
- ③開講されている科目の構成（科目名・単位数）
- ④修了要件

プラス選定に申請する場合は、上記に加えて「先導的で独自の工夫・特色」を含めて作成してください。

本資料は文部科学省において公表資料として
使用する可能性があります

プラスのみ申請用

大学等名	〇〇大学
プログラム名	〇〇大学リテラシープログラム
プログラム掲載URL	https://suurl.datascience.ai/
現在(直近)の認定期間	R3.4.1～R8.3.31

HPで示すプログラム名と相違ないか確認してください。

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件	学部・学科によって、修了要件は相違しない
② 対象となる学部・学科名称	文学部、経営学部、国際教養学部
③ プログラム履修必須の有無	既に履修することが必須のプログラムとして実施
④ 修了要件	必須科目2単位と選択必須科目1単位(2科目のうち1科目)の計3単位を修得すること。

⑤ プログラム構成科目

必要最低科目数・単位数	2 科目 3 単位																						
		モデルカリキュラム対応状況																					
	授業科目	単位数	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	その他
(1) 必須科目 (プログラムを修了するために必ず履修しなければならない科目)	科目a	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						○	○			
※卒業要件上の必修科目とは必ずしもイコールではない																							
(2) 選択必須科目 (プログラムを修了するために一定の条件のもと履修しなければならない科目)	科目b 科目c	1 1							○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○			○ ○	○ ○				○ ○	○ ○	
(3) 選択科目 (プログラムを構成する科目のうち「必須科目」「選択必須科目」のいずれにも該当しない科目)																							

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 1-6 ・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI「科目a」 ・データ量の増加、AIの非連続的進化「科目a」 ・Society 5.0、データ駆動型社会「科目a」 ...
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 1-3
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 1-5
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1 3-2
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1 2-2 2-3
以下のオプションを含むもの 4-1 統計および数理基礎 4-2 アルゴリズム基礎 4-3 データ構造とプログラミング基礎 4-4 時系列データ解析 4-5 自然言語処理 4-6 画像認識 4-7 データハンドリング 4-8 データ活用実践(教師あり学習) 4-9 データ活用実践(教師なし学習)	4-1 4-2 4-3 4-4 4-5 4-6 4-7 4-8 4-9 その他

モデルカリキュラムに記載されているスキルセットの該当するキーワードを転記し、授業科目名を記入してください。

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 **令和2** 年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

学部・学科名称	学生数		入学 定員	収容 定員	令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		履修者数 合計	修了者数 合計
	うち女性				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
文学部	324	123	80	320	65	50	60	50	50	30	45	10					220	140
経営学部	250	80	60	240	45	35	35	25	30	15	26	12	20	7	10	3	166	97
国際教養学部	236	97	60	240	35	25	40	25	38	20	32	17	24	10	15	5	184	102
工学部	404	75	100	400	100	100	100	100	100	100	100	100	60	24	35	10	495	434
医学部	303	78	50	300	25	5	12	2									37	7
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
合 計	1,517	453	350	1,500	270	215	247	202	218	165	203	139	104	41	60	18	1,102	780

履修者数は履修を開始した年度に計上してください。

修了者数は当該年度に修了要件を満たした者を計上してください。
(履修者の内数ではありません)

認定期間中における成果と課題、今後の計画について

教育プログラムの改善、教育の質向上に資する取組・成果という観点から、可能な限り定量的なデータに基づく分析やこれまでの自己点検・評価結果を踏まえて、記載してください。

項目	具体的な取組の成果、課題
①プログラムの学修成果 (学生等が身に付けられる能力等)	(プログラムを通じて学生がどのような能力を身に付けることを目標としていたのか、目標とその結果について、学生アンケート等に基づく分析を踏まえて記載)
②履修者数向上に向けた取組	(全学的な履修を促進してきた取組内容と具体的な成果、学生アンケート等に基づく分析と今後の課題について記載)
③修了者数向上に向けた取組	((②を踏まえつつ、修了者を増加させるべく取り組んできた内容とその成果、今後修了者を増やしていく上での課題について記載)
④関連する資格の取得推進に向けた取組	(学修成果の定量的な指標として、ITパスポートや基本情報技術者試験など履修者に対して取得を推奨してきた取組があれば、取組の詳細やその成果、今後の課題について記載)
⑤修了者の進路、企業からの評価	(プログラムを修了した卒業生の進路先や活躍状況についての把握状況、採用した企業からの評価等を踏まえて、具体的な成果、今後の課題について記載)
⑥プログラムの改善状況	(履修・修了した学生からの評価、出口としての企業からの評価や要望等の分析内容、それらを踏まえて、プログラムをどのように改善・進化させてきたのかについて、詳細と今後の課題について記載)
⑦再認定後のプログラムの目標・計画	((①～⑥を踏まえて、再認定後の教育プログラムにおいて重点的に取り組む内容、再認定期間内における目標について具体的に記載)

大学等名	〇〇大学／〇〇高等専門学校	レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	〇〇大学／〇〇高等専門学校リテラシープログラム	初回認定年度	令和 3 年度

取組概要

現在（直近）の認定期間中における教育プログラムの取組概要・成果について、適宜図や写真、データ等も挿入し、1 ページにまとめて記載してください。
 ※フォントの種類や大きさ、色などは適宜変更願います

- 【記載する内容例】
- ・プログラムの構成
 （カリキュラムマップ、修了要件、身に付けられる能力）
 - ・履修者、修了者、資格取得等の実績、成果
 - ・地域や産業界と連携した取組事例

本資料は文部科学省において公表資料として
 使用する可能性があります